

さんと赤ちゃんが帰ってくる
と、ざぶとんにおさまるほど
の大きさでした。

弟の名前は葉月です。なぜ
葉月という名前になったかと
いうと、その由来は八月に生
まれたからです。ほくには三
さい年下のえみかという妹が
います。えみかのたん生日は
十月六日。ほくは五月二十六
日です。葉月はざぶとん一つ
で入りきるほどの大きさでし
たが、今はざぶとんが二まい
ないと入らないほどの大き
さです。お母さんは葉月が生ま
れる前は二階にあるしん室で
ねていたけど、葉月が生まれ
るとリビングでねるようにな
りました。葉月が五さいぐら
いになったら、いっしょに遊
びたいです。

タイの魅力

五年 森 栞那

わたしは、5日間タイのバ
ンコクに行ってきました。そ
の5日間と昨年、一昨年で知
ったタイの魅力を教えます。
私が思っている一番の魅力は、
人のやさしさです。バスや電

車で子どもがいたら、必ず席
をゆずってくれます。わたし
は、ゆずってもらった時、
「タイの人は、やさしいな。」
と思いました。日本でも席を
ゆずってくれる人もいるけど、
タイの人はみんなが当たり前
のように親切にしてくれて驚
きました。満員電車では、ド
アの近くにある手すりをお兄
さんがゆずってくれました。
レストランやホテルでも、
特に子どもに対してはやさし
くしてくれたと思います。み
んな優しい笑顔でした。

他にも日本では見られない
光景がたくさんありました。
屋台では、ムカデやサソリを
あげて売っているのも見かけ
ました。
「どんな味がするのかな。買
う人はいるのかな。」
と調べてその屋台をちよつと
だけ見ていたけど、買ってい
る人はいませんでした。ムカ
デやサソリはどんな味がする
のか気になったけど、やっぱ
り食べたくなかったです。バイ
クタクシーに乗って通学して
いる人もたくさんいて、びっ
くりしました。放課後には、
ショッピングモールで友達と

高齢者について

六年 北地 杏

私のひいおばあちゃんはグ
ループホームに入所していま
した。グループホームとは、
高齢者が介護スタッフの支援
を受けながら少人数で共同生
活を送るところです。

私は小さい頃からひいおば
あちゃんに会いに行っていた
し、お母さんも働いているか
ら何度も行つたことがあります。
ひいおばあちゃんだけじゃ
なく、グループホームに住
んでいるおじいちゃんやおば
あちゃん達と一緒に、書道を

したり折り紙をしたりしたこ
ともあります。一緒にしてい
る時に、同じ話を何度もした
り、仲よく話していると思っ
たら急に怒ってきたりする時
もありました。でも、施設の
人が話しかけると怒っていた
人も笑顔になっていました。

私はおばあちゃん達の言っ
ていることがわからないことも
あったし、どうやって返事を
したらいいかわからないこと
が多くて黙ってしまふことが
多かったと思います。認知症
の方々への対応の仕方を調べ
てみると「相手に寄り添い、
安心感を与える」ことが大切
で、「話をよく聞く」「短くわ
かりやすい言葉でゆつくり話
す」「急がせたり叱つたりせ
ず相手のペースに合わせる」
「本人にできることは奪わな
い」「否定をせずに共感する」
ことも大切だそうです。ひい
おばあちゃんに会いに行つた
時、お母さんが私たちが来て
いることを近くで声をかけて
教えてあげたり、私やお父さ
んの名前を言つたりしていた
のは、ひいおばあちゃんがわ
かりやすいように伝えていた
のかなと思いました。私はど

んな人にも優しく接して、相
手の話のペースに合わせてい
るお母さんや他のスタッフさ
んたちはすごいと思いました。
私が五歳の時、グループホ
ームで夏祭りがありました。
そこで一人のおばあちゃんが
救急車で病院に運ばれていき
ました。当時の私は何もでき
ず、泣くことしかできません
でしたが、今は認知症の人の
ことや高齢者のことを少しは
知ることができたのかなと思
います。これからは高齢者の
方が困っていたら勇気を出し
て、優しく、
「大丈夫ですか。」
と声をかけることができるよ
うになりたいです。私のおじ
いちゃんやおばあちゃんのお
友達は、会うとあいさつをし
てくれたり野菜を育ててくれ
ていたりします。私は高齢者
の方達からたくさん教えても
らっていると思うのでこれか
ら勉強しておばあちゃん達
が困っていたら助けられるよ
うになりたいです。

私たちがこれから知ってい
かなければならないことは、
高齢者の方たちがもし認知症
や体が不自由になってしまっ

太地中学校

戦争と平和

一年 富田 龍之介

僕が戦争というテーマを選
んだ理由は、先日学校の平和
学習で「この世界の片隅に」
を見て、戦争が多くの人を権
利を奪っていると感じたから
です。「この世界の片隅に」
という話は一九四四年の広島
県の呉市が舞台の話です。主

謝の気持ちは伝えられなかつ
たけど、自分の周りの人たち
に感謝の気持ちを伝えていき
たいと思います。

私の将来の夢は決まってい
ませんが、勉強をいっぱいし
て人の役に立つ仕事につけた
らなと思います。人に寄り添
い、優しくすぐに叱らずにそ
の人のペースに合わせ、相手
の話聞ける人になりたいで
す。高齢者も障害のある人も
誰もがみんな、幸せに暮らせ
る社会になったらいいなと私
は思います。

人公のすずは、一八歳で生ま
れ育つた広島市から呉市に嫁
ぎ、見知らぬ土地、知らない
人たちの中で慣れない家事や
人間関係に苦労しながらも少
しずつ家庭になじんでいきま
す。しかし、戦争は激しくな
り、物資は不足し、生活は苦
しくなり、空襲によって大切
なものが奪われても小さな幸
せと希望を見つけないながら生き
続けようとする物語でした。

僕は、今、学校に行き、お
いしいご飯を食べて、お風呂
に入つて、安心して寝ていま
すが戦争が起これと学校にも
行けず、おいしいご飯も食べ
られず、お風呂にも入れず、
安心して寝ることができませ
ん。僕が今、当たり前だと思
っている「生きる権利」「学
ぶ権利」「平和に暮らす権利」
が戦争によって一瞬で奪われ
ていくのだと知りました。も
し明日、戦争が起きたら、次
の日には自分が亡くなってい
るのではないかと思うと眠れ
ません。だけど、今は幸せに
過ごしているのが安心して眠
れています。今でも、ロシア
とウクライナで戦争が起きて
います。今まで関係のなかっ
た人も戦争によって家も大切
なものもなくなっています。
だから、戦争をしてはいけ
ないのだと思います。

平和や人権を守るために、
自分にできることは何か考え
ました。それは、戦争につい
て学び続けること。友達や家
族を大切にすること。そして、
いじめや差別をなくすことや
人を思いやる行動が平和につ
ながるのだと思います。

僕たちが暮らす地域に近い
新宮市や那智勝浦町では、広
島に原爆が落とされた八月六
日、長崎に原爆が落とされた
八月九日、終戦の日の八月十
五日はサイレンが鳴ります。
このサイレンは、戦争で亡く
なった人々を思い出し、平和
を祈るために鳴らしているこ
とを知りました。でも、僕た
ちが住んでいる太地町はサイ
レンが鳴りません。戦争を忘
れず平和を祈るためにも鳴ら
してほしいと思います。

これからも人権を守り、平
和を大切にして生きていきたく
なと思っています。



動物の権利

二年 川崎 柚葉

「動物と私たち人間の違
いって？」
そう聞かれたとき、私なら体

のつくりや生活の仕方など、
外から見てもすぐ分かること
を答えると思います。けれど、
「じゃあ、動物との共通点
？」と聞かれたとき、私は少
し悩んでしまうかもしれませ
ん。共通点は外から見てもあ
まりわからないからです。そ
して私は考えました。動物と
人間の共通点はたくさんある
かもしれないけれど、いちば
んの共通点とは「心」なので
は、と。動物にも人間にも自
分で考えていることはありま
す。これをやると楽しい、こ
うなると悲しい、などの感情
があるのです。私はそう考え
ました。

私が小学四年生のとき、あ
る動画を見つけた。その
動画は遺棄された犬や猫が殺
処分に至るまで、というよう
な内容でした。動画では、保
健所の人たちに突然連れてこ
られて、ひどく怯えている成
犬や、生まれたばかりでまだ
何も理解できない子猫など、
とても残酷な映像でした。保
健所では、人が通るとおりの
中から吠える犬、手を上げた
だけでケージの隅で怯える猫
(四面へ続く)